

2022年3月11日

主催（公財）ミズノスポーツ振興財団

「2021年度 ミズノ スポーツライター賞」受賞者決定

（公財）ミズノスポーツ振興財団では、1990年度から「ミズノ スポーツライター賞」を制定しており、2021年度で32回目を迎えます。この賞は、スポーツに関する報道・評論およびノンフィクション等を対象として、優秀な作品とその著者を顕彰するとともに、スポーツ文化の発展とスポーツ界の飛躍を期待し、これからの若手スポーツライターの励みになる事を願い制定したものです。

3月11日（金）、グランドプリンスホテル高輪で選考委員会を開催し、受賞作品および受賞者を以下の通り決定いたしました。

なお、この「ミズノ スポーツライター賞」の表彰式は、4月20日（水）にグランドプリンスホテル新高輪で行います。

【ミズノ スポーツライター賞 最優秀賞】（トロフィー、副賞100万円）

- ・『嫌われた監督 落合博満は中日をどう変えたのか』

（文藝春秋）

鈴木 忠平（すずき ただひら）

【ミズノ スポーツライター賞 優秀賞】（トロフィー、副賞各50万円）

- ・該当作品なし

詳細は別記の通りです。

記

- 名 称： 2021年度 ミズノ スポーツライター賞
- 制 定 目 的： スポーツに関する優秀な作品とその著者（個人またはグループ）を顕彰し、
スポーツ文化の発展とスポーツ界の飛躍を期待するとともに、これからの
若手スポーツライターの励みになる事を願い制定
- 選 考 対 象： 主として新聞・雑誌・単行本などを通じて書かれたスポーツ分野の報道・
評論・ノンフィクション等で、当該年度に発表されたもの
- 選 考 委 員： 委員長 河野 通和（前「ほぼ日の学校長」、『中央公論』『婦人公論』
『考える人』元編集長）
- 委 員 上治 丈太郎（(一社)日本スポーツツーリズム推進機構 理事）
- 〃 長田 渚左（ノンフィクション作家）
- 〃 杉山 茂（スポーツプロデューサー、
元NHKスポーツ報道センター長）
- 〃 ヨーコ ゼッターランド（スポーツキャスター）
- 〃 水野 英人（(公財)ミズノスポーツ振興財団 副会長）

※順不同

対 象 者：日本人および日本在住の外国人

受賞者及び選考理由：

【ミズノ スポーツライター賞 最優秀賞】

●『嫌われた監督 落合博満は中日をどう変えたのか』

(文藝春秋)

鈴木 忠平（すずき ただひら）

2004年から2011年までの8シーズン、中日ドラゴンズの監督を務めた落合博満の物語である。厚さ3cm以上もある大作だが驚くほどスムーズに読み進めることができる。著者の筆力の賜物と言えるだろう。

本書はプロローグとエピローグを含めると13章立て。年（シーズン）毎に一つないし複数の完結したストーリーを展開し、落合の監督就任から解任までを描こうとする構成である。それぞれのストーリーには主人公がいて、落合と絡むことで何かを掴んだり、人生の転機を迎えたり、さまざまな経験を重ねる。多くの場合はドラゴンズの選手を取り上げたが、時に球団職員も登場する。

主人公たちと落合の関係性を軸に「私」すなわち著者本人の取材を通した「解釈」を加味することでドキュメンタリーとしてのリアリティを増している。スポーツ紙の駆け出しの記者として監督就任直前に「伝言」を伝えることで始まった著者と落合の関係は、記者として著者が

成長し、取材対象から信頼を得ていくことで厚みを増してゆく。落合は雄弁ではない。そこで、周囲の人々の印象、反応、対応、などから落合という人間を浮き彫りにしようという試みだ。そしてそれは見事に成功した。

著者の手法として出色なのは、情景描写に陰影や濃淡をつけることで人物の心の動きや変化を読者に共感させることである。抑えた描写のなかにもその人物の人となりを書きこみとして伝える文章は巧みで、この著者にしかないオリジナリティではないだろうか。

10年以上前の取材をベースに実に生き生きと不世出の異端児を書き上げた。スポーツライターの業績を顕彰する賞にふさわしい出来栄である。

以上

(お問合せ先)

公益財団法人ミズノスポーツ振興財団事務局	内橋・澤井	TEL. 03 (3233) 7009
ミズノ株式会社 コーポレートコミュニケーション室	木水	TEL. 03 (3233) 7037